

2016年10月17日

関係各位

慶應義塾大学  
野村ホールディングス株式会社

## ファイナンシャル・ジェロントロジーに関する共同研究を開始

慶應義塾大学（塾長：清家篤）と野村ホールディングス株式会社（グループ CEO：永井浩二、以下「野村ホールディングス」）は、高齢者の資産に関わる課題を幅広く理解し、その解決への道筋を探るために、共同で「長寿・加齢が経済及び金融行動に与える影響（ファイナンシャル・ジェロントロジー）に関する研究」プロジェクトを立ち上げました。

急激な少子高齢化・長寿化が進むなか、これからの日本にとっては、豊かな老後のために個人の金融資産を形成し、管理していくことが非常に重要な課題と考えられています。またそのためには、高齢化・加齢に伴う身体能力や認知能力の変化を理解し、資産管理に活かしていくことも必要になってきます。

慶應義塾大学では、この問題に関して広く研究・提言を行っていくための基盤として、本年6月、「経済研究所ファイナンシャル・ジェロントロジー研究センター」（以下「研究センター」）を設立しました。今回の産学連携プロジェクトも、理論研究のみならず、実務を通じてその成果を広く社会に還元していきます。

野村ホールディングスでは、研究センターと共に、少子高齢化、長寿化という環境の中で、個人金融資産をいかに管理・運用していくか、また金融機関としてどのように提案すべきかについて、調査・研究を進めていきます。その成果を、高齢者を担当する社員の教育にも生かし、これまで以上に、高齢者へのサービスの充実・向上を目指します。

慶應義塾大学と野村ホールディングスは今後も連携して、日本が直面している高齢化・長寿化をはじめとする様々な課題について理解を深め、解決に向けた取り組みを行うことで、国民の金融にかかるニーズに応え、豊かな生活の実現に貢献していきます。

以上